



## GUI での他のタスク

---

この章は、次の項で構成されています。

- [グラフィカルユーザ インターフェイス \(GUI\) \(1 ページ\)](#)
- [GUI のシステム情報 \(2 ページ\)](#)
- [GUI からの XML ステータスの収集 \(2 ページ\)](#)

## グラフィカルユーザ インターフェイス (GUI)

グラフィカルユーザ インターフェイス (GUI) は、システムのモニタリングおよび設定用の一部のコマンドラインインターフェイス (CLI) コマンドに代わる Web ベースのインターフェイスです。GUI を使用することにより、AsyncOS コマンド構文を知らなくても、単純な Web ベース インターフェイスを使用してシステムをモニタできます。インターフェイスに対して HTTP、HTTPS、またはその両方のサービスをイネーブルにすると、GUI にアクセスし、ログインできるようになります。詳細については、「[アプライアンスへのアクセス](#)」の章を参照してください。

## インターフェイスでの GUI のイネーブル化

システムはデフォルトで、管理インターフェイスの HTTP がイネーブルになった状態で出荷されます。

GUI をイネーブルにするには、コマンドラインインターフェイスで `interfaceconfig` コマンドを実行し、接続先のインターフェイスを編集して、HTTP サービスとセキュア HTTP サービスのいずれか、または両方をイネーブルにします。



---

(注) また、いずれかのインターフェイスで GUI をイネーブルにした後は、[ネットワーク (Network)] > [IP インターフェイス (IP Interfaces)] ページを使用して、別のインターフェイスに対して GUI をイネーブルまたはディセーブルにすることもできます。詳細については、[IP インターフェイス](#)を参照してください。

---



- (注) インターフェイスでセキュアHTTPをイネーブルにするには、証明書をインストールする必要があります。詳細については、「HTTPSの証明書のイネーブル化」を参照してください。

いずれかのサービスについても、サービスをイネーブルにするポートを指定します。デフォルトでは、HTTPはポート80、HTTPSはポート443でイネーブルになります。1つのインターフェイスで両方のサービスをイネーブルにすると、HTTP要求をセキュアサービスに自動的にリダイレクトできます。

さらに、このインターフェイス（HTTPまたはHTTPS経由）でGUIにアクセスしようとするすべてのユーザは（[ユーザアカウントを使用する作業](#)を参照）、標準のユーザ名とパスワードのログインページで自分自身を認証する必要があります。



- (注) GUIにアクセスできるようにするには、commitコマンドを使用して変更内容を保存する必要があります。

次の例では、GUIはData 1インターフェイスでイネーブルになります。interfaceconfigコマンドはHTTPはポート80、HTTPSはポート443でイネーブルにするために使用されます（デモ証明書はcertconfigコマンドが実行できるようになるまでHTTP用に一時的に使用されます。詳細については、「[アプライアンスへの証明書のインストール](#)」を参照してください）。ポート80へのHTTP要求は、Data 1インターフェイスではポート443に自動的にリダイレクトされるように設定されます。

## GUIのシステム情報

- [システム概要 (System Overview)] ページでは、次のことができます。
  - 主要システムのステータスとパフォーマンスの一部の情報を示す履歴グラフおよびテーブルを表示する。
  - アプライアンスにインストールされているAsyncOSオペレーティングシステムのバージョンを表示する。
  - 主要統計情報のサブセットを表示する。
- [システムステータス (System Status)] ページには、システムのすべてのリアルタイムメールおよびDNSアクティビティの詳細が表示されます。また、システム統計情報のカウンタをリセットしたり、カウンタが最後にリセットされた時刻を表示したりすることもできます。

## GUIからのXMLステータスの収集

XMLページを通じてステータスを表示するか、XMLステータス情報にプログラムでアクセスします。

XML ステータス機能は、電子メールのモニタリング統計情報にプログラムでアクセスする方法を提供します。最新のブラウザには、XML データを直接表示できるものもあります。

GUI のページにあるこの表の情報は、対応する URL にアクセスすることで動的な XML 出力としても使用できます。

GUI のページ名	対応する XML ステータス URL
メール ステータス (Mail Status)	<code>http://hostname/xml/status</code>
特定のホストのホスト メール ステータス (Host Mail Status for a Specified Host)	<code>http://hostname/xml/hoststatus?hostname=host</code>
DNS ステータス (DNS Status)	<code>http://hostname/xml/dnsstatus</code>
上位着信ドメイン (Top Incoming Domains)	<code>http://hostname/xml/topin</code>
上位送信ドメイン (Top Outgoing Domains) <sup>1</sup>	<code>http://hostname/xml/tophosts</code>

<sup>1</sup> このページはデフォルトで、アクティブな受信者数の順にソートされます。この順番を変更するには、URL に「?sort=order」を付加します。ここで、order は `conn_out`、`deliv_recip`、`soft_bounced`、または `hard_bounced` です。



## 翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。